

# つちおと

## 復興庁宮城復興局気仙沼支所、満2歳を迎えました。

- 平成24年2月10日、「一刻も早い復興を成し遂げられるよう、被災地に寄り添いながら、前例にとらわれず、果敢に復興事業を実施するため、(1)復興に関する国の施策の企画、調整及び実施、(2)地方公共団体への一元的な窓口と支援等を担う」として復興庁は誕生しました。  
当気仙沼支所は、現場の第一線において、気仙沼市・南三陸町、そしてそこに暮らす被災者の皆さまと復興庁との接点として、「被災地の声」に耳を傾けながら業務にあたっています。
- 復興庁では、この2年間、復興の加速化に向けた様々な取組を行ってまいりました。「すまい」の再建、「なりわい」の再生を最重要課題として位置付け、集団移転事業等を加速させるため、移転予定地の埋蔵文化財調査や用地取得の迅速化、今後懸念される工事従事者や材料の不足なども、地元関係者の意見を伺い、組織内で情報を共有して対応を検討しています。
- また、被災から時間が経過していることから、「心のケア」や「地域コミュニティの形成・維持」といった、ソフト面の支援についても、NPOの方々などと連携しながら活動しています。
- 震災から間もなく3年。支所管内のあちらこちらで「つちおと」が響くようになってきました。  
2011年3月11日(金)14時46分に発生した、千年に一度とも言われる東北地方太平洋沖地震から、ここまでの道のりは、本当に険しく困難なものであったと思います。  
先人がこれまで築き上げてきた地域の再生は、一朝一夕で終わるような仕事ではありませんが、被災自治体の復興事業が滞らないよう、これまで以上に被災地の声を敏感にキャッチしながら、被災地の支援を続けてまいります。

◆1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると言いますが、まさにそのとおりの年度末です。気仙沼支所での一年目は、無我夢中で過ぎ去ったような気がしますが、二年目は、様々な経験値を持っているが故に、焦りと反省に追われる毎日です。◆3・11は、被災地各所で追悼式が予定されているようです。このような「節目」には、被災地への関心が一時的に高まりますが、時間の経過とともに、震災記憶の風化が顕著になっているように思えます。「自然物の風化」は致し方ないものですが、「記憶の風化」は進行を抑えることができるのではないのでしょうか。◆本紙3面に紹介記事を掲載しましたが、「復興支援インターン」は、大学生の企業ボランティアを通じて「記憶の風化」を抑制しようとする取組みであり、宮城復興局が、関係する大学と連携しながら実施しています。昨年につづき、今年2、3月も気仙沼市、南三陸町の被災企業での実務経験や、被災企業の従業員の方々との意見交換、また終業後は、宿舎に戻って勉強会を実施するなど、寸暇を惜しんで被災地の認識を深めています。彼らは、それぞれ学校に戻ってから、様々な機会を通じて被災地の情報を発信してくれることになっており、被災地と全国各地を結ぶ「絆」として期待される所です。◆先日、神戸のテレビ局から取材の申し入れがあり、被災地の現状、復興事業の進捗状況などを説明しました。インタビューの所々で、阪神淡路大震災と比較していかがか?という問いかけがありましたが、ひと言で言えば「現地再建ができないのが三陸地方です」と応えました。つまり、災害危険区域が設定されたこと。当支所管内では、住宅再建のための事業が本格的に動き始めましたが、災害危険区域を避けて、高台移転を余儀なくされる或いは、浸水区域に高盛土をしてまちを再生させるといった難工事が必要なのですと…。◆ロシアで開催されていたソチオリンピックで、宮城県出身の羽生結弦選手が、男子フィギュアスケートでは日本人初となる金メダルを獲得、しかもこれが初出場での快挙とあって、被災地に明るいニュースとなりました。選手のみなさん、ご苦労様でした。◆被災から3年、新たなステージに入りつつある被災地復興に立ち塞がる課題に速やかに対応するため、当支所は、これからも「被災地の声」をきめ細やかに聞き取ってまいります。(山)

## ～ 第2回地域復興マッチング「結の場」(気仙沼)における事業成果について (最終報告) ～

復興庁では、被災地域の企業が抱える経営課題を解決し、また経営力を強化するために、大手企業等の持つ経営資源（ヒト・モノ・情報・ノウハウ等）を効果的につなぎ、持続的に発展する地域経済の実現を目指して、地域復興マッチング「結の場」を展開しております。気仙沼では、この取り組みの第2弾として、昨年2月から気仙沼商工会議所とともに、大手企業等29社・気仙沼市内の水産加工業者10社に参画いただき、大手企業側の支援提案と気仙沼企業側のニーズのマッチングを進めてまいりました。マッチングの結果、26件の具体的なプロジェクトが創出されました。本年2月21日、この事業成果の最終報告（※）が行われましたのでお知らせするとともに、生み出されたプロジェクトの一部を以下にご紹介いたします。



結の場定食

### ○新宿三井ビルディング職域食堂「被災地復興支援メニュー」

“ふかかつ”など、さかなフライ4種を盛り合わせた「結の場定食」や秋刀魚竜田揚げの「結の場丼」を開発し、新宿や虎ノ門で支援企業が所有するビル内の食堂において気仙沼食材の仕入れ、毎週継続して提供。



結の場丼

### ○マル・デ・ミヤギ

支援企業が河北新報社とともに主催するイベント「マル・デ・ミヤギ」（日時：平成26年3月6～7日、場所：丸の内ビルディング）において、気仙沼、石巻の水産加工会社による販売会を実施。

### ○「サメの街気仙沼構想推進協議会」サポートプロジェクト

サメ肉の高付加価値化や『サメの街気仙沼』の街ブランドの確立を目指す「協議会」に対し、アイデアの提案、サメ食の普及活動、『サメの街気仙沼』PRを実施。



「協議会」サポートプロジェクト

### ○「結の場」気仙沼企業マルシェプロジェクト

支援企業の本社ビルに勤務する数百から数千人の社員を対象に試食会、販売会を実施。試食会ではアンケートも実施し、その分析結果をもとに“売れる商品は何か”を模索し、実際の商品開発を目指す。

### ○気仙沼産さんま産直企画

支援企業が開設しているWEB通販において、気仙沼産直企画を展開。

### ○地域食材・商品を使用した商品開発・販売

気仙沼企業の商品や食材を使用した商品を開発。東北6県および新潟県のコンビニエンスストアでの商品販売につなげる。

おにぎりとパスタの商品化を予定。



企業マルシェプロジェクト

また、この取り組みの第3弾を南三陸において進めております。復興庁としては、引き続き「結の場」を通じて被災地域企業の経営力の強化を支援するとともに、創出された優良事例に関する情報発信等を通じて、被災地経済の復興が加速されるよう、一層取り組みを進めてまいります。

※事業成果報告書は復興庁HP（以下のURL）に掲載しております。

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat4/sub-cat4-1/20140220195237.html>



## ～ 「復興支援インターン」 ～

第18号でもご紹介いたしました本プロジェクトは、復興大学（※1）が主催、宮城復興局、気仙沼商工会議所が共催するもので、被災地域外の学生に、被災企業での職業体験等を通じて、被災地及び被災企業の現状、復興の進捗、復興の課題等について学ぶとともに、そうした自らの体験等を広く発信してもらうことを目的とするものです。昨年8月から9月にかけて、気仙沼、南三陸の12の企業に関東から九州までの約60名の学生が受け入れられ、各大学で様々な形で情報発信がなされました。この取り組みについて、参加学生のみならず、受け入れ企業からも好評をいただき、気仙沼、南三陸において、本年も引き続き実施することといたしましたのでお知らせします。（※2）

オリエンテーションにおいて、職業体験等の企画に意欲的に取り組む受け入れ企業に熱意を感じましたし、参加学生の職業体験や受け入れ企業社員とのコミュニケーションへの関心の高さを感じました。

参加学生は、今月中旬から、職業体験として主に水産物の加工・出荷作業に取り組み、さまざまなことを学んだあと、每晚、参加学生間で意見交換を行っています。

意見交換からは、受け入れ企業社員とのコミュニケーションの取り方に工夫を凝らしている様子や、被災地のためにどんな情報発信ができるのかを模索している様子がよくわかりました。また、関東などの若者でも気仙沼、南三陸に来たくなるような情報発信をしたいと思った、食品の放射性物質検査が行われていることがわかり、東北の食品に一層の安心感がわいた、震災時の話を聞いて、一日一日の大切さを改めて実感した、などといった貴重な経験をしてくれているようです。気仙沼、南三陸に愛着がわいてきているようにも感じました。

職業体験終了後、参加学生は東北から九州までの各大学に帰って情報発信に取り組むこととなりますが、今年も充実した情報発信が期待できそうです。これらが震災復興を後押しする大きな力になってくれることでしょう。

※1 東日本大震災後、学都仙台コンソーシアム参加構成委員の大学・高专等が宮城県や県内の自治体等と協力して「復興人材育成教育コース」「教育復興支援」「地域復興支援ワンストップサービス」「災害ボランティアステーション」の4つの事業を推進。（<https://www.fukkou-daigaku.jp/>）

※2 詳しい日程や参加大学などは復興庁HP（以下のURL）に掲載しております。

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat10/sub-cat10-3/20140213183413.html>



受け入れ企業向けの  
オリエンテーションの様子



職業体験の様子



毎晩の学生間での意見交換の様子

## ～ 定期借地権にかかる出張勉強会～

復興庁宮城復興局では、防災集団移転促進事業に関連して、気仙沼市、南三陸町などの担当者が50年以上の長期間土地を貸し出す定期借地権制度について学ぶ勉強会を2月12日に東松島市で開催しました。

勉強会では、日本司法書士会連合会の山内鉄夫副会長が契約書のひな形を示しつつ、逐条で丁寧に制度を説明されたほか、金融機関から、定期借地権契約での住宅ローンの注意点の説明もいただきました。



住まいの復興へ向けてまた一歩前進です。

### 【3月5日, 19日開催】「東日本大震災生活復興フォーラム」開催のお知らせ（ひょうご震災記念21世紀研究機構）

生活や暮らしの視点から東日本大震災の被災者を支援するため、「東日本大震災生活復興プロジェクト」に取り組んでいます。岩手県、宮城県、福島県の3県で、44回約1,100人の被災者、支援者等の参加による復興円卓会議を重ね、「生活復興のための15章」としてまとめる予定です。このたび、プロジェクトの成果を発信するとともに、被災者への支援の継続を働きかけていくため「東日本大震災生活復興フォーラム」を開催いたします。◇平成26年3月5日（水）13:00-16:00 ◇神戸ポートピアホテル

◇平成26年3月19日（水）13:00-16:00 ◇TKP ガーデンシティ仙台

詳細はURLよりご確認ください。⇒ <http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/pdf/140129forum.pdf#zoom=100>

### 【4月13日開催】「第4回エコ・スローマラソン印旛(千葉県)」(特定非営利活動法人エコマラソン・インターナショナル)

東日本大震災の風化防止や風評被害払拭を目的とした、スローマラソンが楽しめる国際スポーツ大会を千葉県の印旛沼周辺にて開催します。海外からの参加者とともにスローマラソンを楽しむことができます。

参加費は無料ですが、東日本大震災復興に向けた一口5,000円以上の義援金を募ります。

詳細はURLよりご確認ください。⇒ <http://ecoinba.blogspot.jp/>

## ナンプレにチャレンジ！！

						4	
				8		1	5
			6	9	1	3	
		8		2		6	
		6	4	5	7		9
	5	9		6		7	2
			3				9
5	6	3		7	2		4
	1			8	4	3	6

#### ルール

- ・9マスごとの縦の列と横の列にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。
- ・太枠で囲まれた9マス（縦3マス、横3マス）にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。

#### 【編集後記】

◆私の趣味はバレーボールです。2月23日、気仙沼市長杯ソフトバレーボール大会に参加しました。ヤング、ミドル、シニアの3つのグループに分かれての熱い戦い。東洋大学（東京）の学生さんたちもボランティアの環境で参加されたこともあり、一層充実した地域スポーツを楽しみました。

（前号のナンプレの回答）

3	2	7	4	1	9	8	6	5
8	9	6	5	3	7	4	1	2
5	1	4	6	2	8	3	7	9
6	5	9	7	4	2	1	3	8
4	3	8	1	6	5	9	2	7
2	7	1	8	9	3	6	5	4
7	4	2	3	8	6	5	9	1
1	6	5	9	7	4	2	8	3
9	8	3	2	5	1	7	4	6

ありがとうございます



2年前の気仙沼支所開設の日、初めて支所に入ったときに目に飛び込んできたのが、写真の「花」でした。そこには、「気仙沼の一市民です。復興庁の設置を祝す」というメッセージが添えられていました。いま、この方は支所の事をどのように感じていらっしゃるのか。期待を裏切られたと思われぬよう努力することを、この「花」に誓います。



これまで発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます

- ①復興庁のホームページ
- ②宮城復興局
- ③気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所  
電話 0226-23-5301  
FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ

<http://www.reconstruction.go.jp/>